

No.	分科会名	分散会	分散会名	テーマ	座長	助言者	
			豊かな日常生活を支える①	<p>その人らしい暮らしを支えることを中心に、日常生活の中での支援のあり方や個別ケアの工夫、認知症ケアの取り組み、医療と介護の連携、最期まで食べることを大切にしたり取り組みなど、現場での実践事例を持ち寄り学び合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の「その人らしい暮らし」を支える取り組み ・その人のQOLからつながるリハビリや外出支援などの取り組み ・排泄ケアや入浴ケア、口腔ケアなどの工夫の実践 ・チームケア、多職種協働による実践 ・認知症高齢者が安心して生活できる為の創意思工夫の実践 ・認知症高齢者の尊厳を大切にしたりケアの取り組み ・医療ニーズへの対応と課題 ・感染予防対策の取り組み ・皮膚ケアの充実、褥瘡予防の取り組み ・生活の延長にある看取りケアの実践 ・最期まで食べることを大切にしたり実践 ・嚥下障害や食欲不振、認知症による摂取量低下等への栄養改善の取り組み ・調理現場における個別対応と調理の工夫 ・サービス機関との連携、地域資源の活用 	東京 みやま大樹の苑 施設長 福理 瑞恵	群馬 椿名園の園 施設長 大妻 亨	
		A-1	豊かな日常生活を支える②			福島 おおつき 相談員 佐藤 佐智子	新潟 しおかぜ荘 施設長 松井 裕
			豊かな日常生活を支える③			福島 おおつき 支援部長 神山 留利子	愛知 特養ちあき・第二 介護長 三宅 桂子
			認知症のケアを考える①			静岡 芳川の里	愛知 シルバ・ピアかりや 施設長 早川 昌宏
	施設でその人らしい暮らしを支える	A-2	認知症のケアを考える②			山形 山形虹の会 事務局長 井田 智	岡山 中野けんせいえん 施設長 竹永 徹
			重度化した高齢者への対応 (医療と介護の連携・看取り等)①			熊本 たくまの里	京都 原谷こぶしの里 施設長 介山 篤
		A-3	重度化した高齢者への対応 (医療と介護の連携・看取り等)②		北海道 かりぶ、あつべつ	東京 すこやか福祉会	
			重度化した高齢者への対応 (医療と介護の連携・看取り等)③		福島 はなひらの 事務長 遠藤 絢一	愛知 特養ちあき 施設長 立花 弘美	
		A-4	食について考える		大阪 いこの里	福島 おおつき 管理栄養士 森田 香代子	
	有料ホーム・ケアハウス・サ高住などの多様な住まいの機能と役割を考える	A-5	ケアハウス・有料老人ホーム・サ高住等多様な住まいの機能と役割	高齢者の住まいの普及が促進され、各地で多様な住まいが建設されています。サービス付きの高齢者住宅、有料老人ホーム(住宅型、介護付き)、グループリビングなど、これらが「老人の住まいと介護」の保障になり得るのか、また安心の住まい「終の棲家」になり得るのか、事例を持ち寄り、現状と課題を議論しましょう。	愛知 ケアハウス すこやか 副施設長 森田 由美子	岐阜 ケアハウス ささゆり 施設長 早川 國弘	
	介護老人ホームの役割と課題を考える	A-6	介護老人ホーム	介護老人ホームの役割と今後の運営について、現状課題や固有の問題について議論しましょう。		岡山 岡山市会隣の里 施設長 藤岡 理恵	

No.	分科会名	分散会	分散会名	テーマ	座長	助言者
B	在宅生活を支える	B-1	短期入所の取り組みを中心に	在宅生活を支えるショートステイやデイサービスやケアサービスの役割や課題、地域のネットワーク、医療ニーズの高い利用者への対応についての実践事例を持ち寄り学び合います ・ショートステイ、デイサービス特有の課題、難しさ、工夫した取り組み ・認知症高齢者のショートステイ、デイサービスでの支援の工夫 ・緊急ショートステイの受け入れ(高齢者虐待での対応等) ・ショートステイの洗濯、荷物点検、服薬の管理の課題と工夫 ・デイサービスの役割と求められるニーズの変化 ・デイサービスでのレクリエーション活動等の工夫 ・在宅介護を支える上での家族支援の取り組み、世帯単位での支援の在り方 ・アセスメントとリスク管理、情報共有 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と誤謬 ・チームケア、多機能協働、他機関との連携による支援	宮城 宮城野の里	鳥根 ひまわり園 本館施設課長 木原 淳
		B-2	通所介護の取り組み 地域密着型通所介護	・認知症高齢者のショートステイ、デイサービスでの支援の工夫 ・緊急ショートステイの受け入れ(高齢者虐待での対応等) ・ショートステイの洗濯、荷物点検、服薬の管理の課題と工夫 ・デイサービスの役割と求められるニーズの変化	大阪 結いの里 施設長 阿部 裕一郎	滋賀 デイセンターさくら 所長 水谷 睦美
		B-3	通所介護の取り組み 大規模通所介護(定員18人超)	・在宅介護を支える上での家族支援の取り組み、世帯単位での支援の在り方 ・アセスメントとリスク管理、情報共有 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と誤謬	千葉 やわら木苑 施設長 阿部 孝志	東京 白十字八国苑 所長 吉田 裕
		B-4	困難事例など(介護支援専門員)	・チームケア、多機能協働、他機関との連携による支援	長野 ゆいの里	長野 ゆいの里
		B-5	在宅を支える訪問事業	(訪問介護、訪問看護、訪問リハ、訪問歯科、訪問入浴) 度重なる制度改定に、利用者・家族の在宅生活は、大きな影響を受けています。看取り、独居の認知症高齢者を支える緊密なネットワークの構築も急務です。事例を通して、訪問介護の専門性を語り合い、問題を共有しましょう。 ・サービス提供責任者の主張…「やりがいはあるけど、何とかしてよ！この現売」 ・生活支援の専門性…「その人のらしさを支え、今日も明日も生活できる」を支える ・ヘルパーの担う「医療行為」…研修制度、事故のリスクなど考えておきたい事 ・この家で最後まで…在宅での看取りの実態 ・介護報酬改定における訪問介護現場での影響と支援	山形 とかみ共生苑 部長 高梨 友也	兵庫 あしや喜楽苑
		B-6	グループホームケア	(グループホーム) 地域密着型サービスとして、地域の中におけるグループホームのあり方、重度化や看取りの対応等、ケアの質が問われています。グループホームならではのケアや課題を持ち寄り議論しましょう。 ・グループホームでのケアのあり方、「看取り」「家庭復帰」などの実践 ・グループホームの役割、地域の関わり、連携 ・グループホームの認知症ケアの実践	岐阜 サンシャイン美濃白川 施設長 安江 薫子	鳥根 ひだまり 管理者 常陸 実
		B-7	小規模多機能施設	(小規模多機能施設) 住み慣れた地域で暮らし続けるために「通い」「訪問」「泊まり」のサービスとして、創設されましたが、報酬上での問題や小規模多機能としての役割など、メリットともに多くの問題が浮かび上がっています。在宅生活を支える取り組みや課題について、実践事例を通して議論しましょう。 ・小規模多機能施設と地域との連携 ・認知症になっても地域で暮らせるための施設の役割 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と課題	愛知 岩倉小規模多機能 ホーム・ちあき 所長 村山 真理子	鳥根 やくものお家
		B-8	地域包括ケアと総合事業	(在宅介護支援 地域包括支援・在宅介護支援センター・特養相談部門) 高齢者は、地域で暮らし続ける中で、たくさん生活問題を抱えます。安心して暮らすことができる地域づくり、コミュニティケアについて、また市町村独自の制度など、その人らしい生活が支援できる地域包括ケアの姿について、実践例や課題を持ち寄り議論しましょう。 ・地域ケアの新たな役割と課題 ・権利擁護について(虐待防止・早期発見・成後見制度の活動報告) ・事業所の運営とケアマネジャーの「質の向上」への取り組みについて ・多問題家族や一人暮らし、老老介護など困難事例への取り組み ・障害のある家族支援の取り組み	兵庫 あしや喜楽苑 施設長 小林 浩司	愛知 介護保険サービスセンター一 あき 所長 許斐 明子

No.	分科会名	分散会	分散会名	テーマ	座長	助言者
C	安心・安全な生活を考える	C	安心・安全な生活	<p>日常生活の中には多くのリスクが存在します。リスクへの対応をどのように据えるかで、利用者の生活の有り様がかわることがあります。事故予防の取り組みや体制づくり、研修や学習活動など各施設の実践を持ち寄り議論しましょう。東日本大震災を教訓に、明らかになった課題について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生した事故から学んだこと、再発防止、改善の工夫 ・身体拘束防止、虐待防止の取り組みと課題 ・オンブズマンや第三者機関活動の実例 ・その人らしさ、自由、プライバシーを守るケアの実践 ・事故防止の取り組みや体制、家族との連携・信頼関係づくり ・事故対応のマニュアルとその活かし方(ヒヤリ・ハットの活用) ・高齢者の生活とリスクマネジメントについて ・震災の教訓から防災計画等に活かしたこと 	宮城 田子のまち 介護課長 高橋 純子	福岡 いきいき八田 施設長 山本 明美
D	介護の悩みや誇りを語りあおう	D	職場づくり①	<p>職員が誇りと自信を持って元気に働くことは、職場の大きな目標です。そのような職場づくりをどのように進めるか、取り組みの事例などを持ち寄り、課題や問題解決のヒントを考えましょう。新しい8Kが実現できる職場づくりについて話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えや意見を本音でぶつけ合い、職場の問題に取り組んだ事例 ・職場のストレスマネジメントやメンタルヘルスについて ・管理職や上司、他職種とのコミュニケーションについて ・研修制度、職員育成の工夫や悩みなど ・チームワークや協力・連携への課題など ・8K(希望・輝き・絆・きざぎ・きらめき・感謝・感激・感動)を感じた瞬間 ・介護キャリアアワード制度がもたらすこと 	大阪 いのこの里 法人事務局長 中村 公三	富山 しらいわ苑 施設長 加藤 まゆみ
E	福祉施設における事務の役割を考える	E	事務の役割を考える	<p>事業の多様化、制度改定、厳しい経営環境のなか、「実務の要」としての役割がますます重要になっていきます。また、行政や地域との関係づくりの上でもその能力を求められています。事務部門の役割について議論を深めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設における事務部門の役割、他部門との連携の工夫 ・事務、経理、総務事務の効率化、経営データの活用 ・事務部門からみた介護保険制度の問題 ・施設の民主的運営の課題、各種委員会の事務局など運営への参加 ・全職員参加の運営、処遇改善に向けた取り組みなど ・情報管理の工夫 ・守秘義務と情報公開の課題 	京都 ライブリキきめかけ 事務局長 藤田 隼平	兵庫 にしのみや苑 施設長 田中 研次
F	家族介護者を支える	F	家族介護者を支える (家族会の活動について)	<p>介護保険は「介護の社会化」をうたっています。依然として家族介護に頼る実状があります。在宅介護と施設介護の費用や介護負担の違いなど課題は山積していることに加え、在宅介護の4人に1人はうつ傾向が現れる、心身の疲労を抱えているなどの報告もあり、介護者支援は重要課題と言えます。利用者を支えるために、利用者ご本人のみならず家族等の介護者を対象とした援助技術や支援体制、介護者同士の支援ネットワークの構築、地域のインフォーマルな共同組織などの取り組みや課題を持ち寄り考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族活動の現状と課題 ・家族とのケアパートナーシップ ・家族等介護者への支援と課題 ・介護者のネットワークづくりの現状と課題 ・地域のインフォーマルな共同組織活動 ・家族介護の家族の本音とその支援 	千葉 やわら木苑 総合サービス室長 伊藤 裕之	宮城 宮城厚生福祉会 法人事務局長 大内 誠
F	家族介護者を支える	F	家族介護者を支える (家族会の活動について)	<p>介護保険は「介護の社会化」をうたっています。依然として家族介護に頼る実状があります。在宅介護と施設介護の費用や介護負担の違いなど課題は山積していることに加え、在宅介護の4人に1人はうつ傾向が現れる、心身の疲労を抱えているなどの報告もあり、介護者支援は重要課題と言えます。利用者を支えるために、利用者ご本人のみならず家族等の介護者を対象とした援助技術や支援体制、介護者同士の支援ネットワークの構築、地域のインフォーマルな共同組織などの取り組みや課題を持ち寄り考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族活動の現状と課題 ・家族とのケアパートナーシップ ・家族等介護者への支援と課題 ・介護者のネットワークづくりの現状と課題 ・地域のインフォーマルな共同組織活動 ・家族介護の家族の本音とその支援 	石川 なんぶふやすらぎホーム 施設長 坂口 朋美	東京 白十字ホーム ホーム長 西岡 修

分科会演題募集

職員研究交流集会の分科会には毎年 100 本を超えるレポートが提出され、有意義な実践交流が図られます。日々一生涯懸命、高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践を積み重ねている全国の皆さん、日頃の地道な実践を愛知に持ち寄り、ともに学び、ともに育ちませんか？ぜひ、分科会一覧表（P5～7）をご参照の上、発表をご検討下さい。発表いただける方は、8月31日（水）までに [21・老福連のホームページ](#) からエントリーをお願いいたします。

1

エントリー

8/31 しめきり

2

抄録提出

9/15 しめきり

3

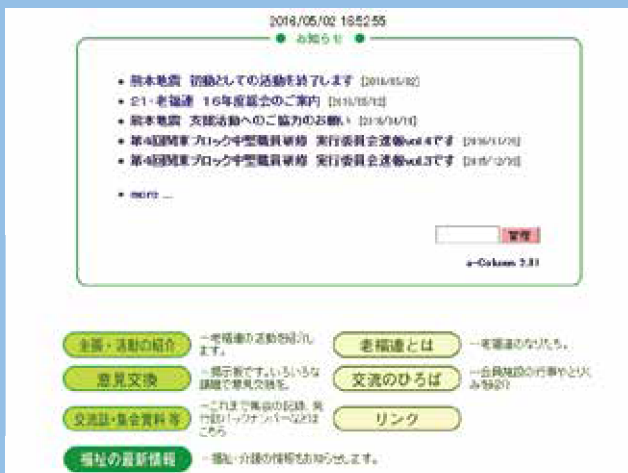
パワーポイント

10/15 しめきり

1

分科会のエントリー方法

エントリーは老福連のHPから

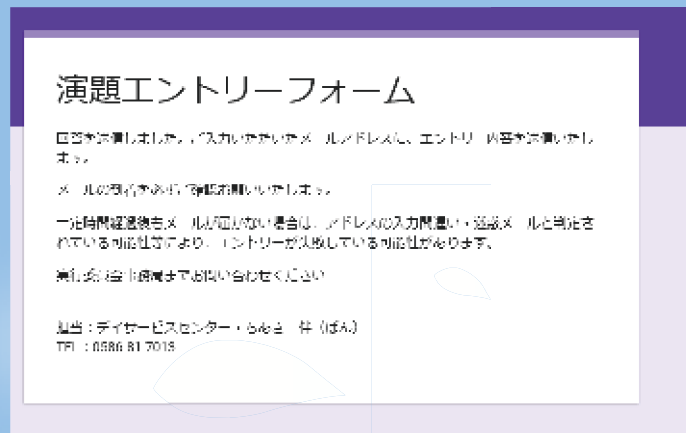
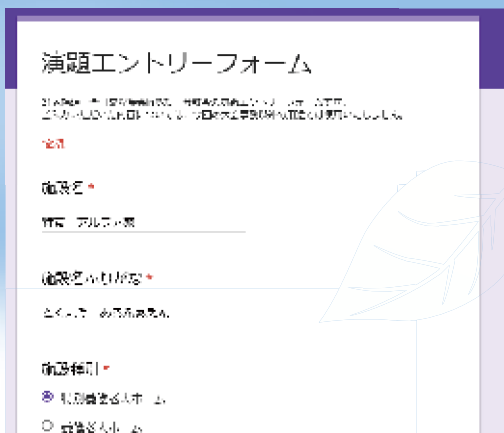


交流誌・集会資料等



職員研究交流集会

入力フォームから必要事項を入力し、送信を押してください



- 送信後、ご入力いただいたメールアドレス宛てに確認メールが届きます。必ず内容のご確認をお願いいたします。（メール不着の場合、エントリー失敗の恐れがあります。その際は別記お問合せ先までご連絡ください。）
- エントリー受付後、分科会によって演題数の大幅な差異が生じた場合は、実行委員会で演題数の調整を行います。希望する分科会から別の分科会へ移っていただくこともございますのであらかじめご了承下さい。

エントリー期限：8月31日（水）

当日配布の資料に掲載する抄録を下記のとおりご提出頂くようお願い申し上げます。なお、パワーポイント使用をされる場合には「PowerPointを用いての発表についてのお願い」（P10）をご参照下さい。パワーポイントの使用については、エントリーの時点で申し出があったものしか認められません。

【抄録作成方法】

21・老福連 HP 第16回職員研究交流会 開催要綱のページから「21・老福連第16回職員研究交流会 演題抄録用紙（みほん）」をダウンロードのうえ作成ください。

※ レポートの末尾に、発表者施設の連絡先（問い合わせ先）を記入してください。

○WORD ファイル名：【[分散会No][県名][施設名][氏名]】（例）A-2 愛知 すこやか の里 豊橋太郎

※ 演題抄録用紙「A4用紙1枚」にまとめてください《厳守》

【提出方法】

抄録提出先 E-mail にて WORD ファイルを添付の上、下記へお送りください。

E-mail : fukushi@chiaki.com

メールの件名、および WORD ファイル名は、【[分科会No][県名][施設名][氏名]】として下さい。

【その他】

発表は事前エントリーされた内容に基づいてお願いします。発表にあたって、利用者等個人情報の取扱いについては、事前に同意を得る等、事業所の個人情報保護規定に従い、適正な対応をお願い致します。研究交流会に参加できない方々とも実践交流を図る趣旨で、研究・実践報告（発表）された内容を「ゆたかなくらし」誌の21・老福連のページに掲載することもございますのでご承知おき下さい。

☆ 発表時間 1 演題につき 10～20分程度（各分科会によって異なるためあくまで目安）

提出期限：9月15日（木）必着

すべてのお問い合わせ先はこちら（お気軽にどうぞ）

〒491-0821 愛知県一宮市丹陽町重吉字新田裏東切 1070-6

デイサービスセンター・ちあき（担当：伴）

TEL : 0586-81-7013 FAX: 0586-81-7023

E-mail: fukushi@chiaki.com

3

PowerPoint を用いての発表についてのお願い

1. 使用機材について

発表に使用する機材は Windows パソコン・プロジェクターとし、主催者側で準備致します。スピーカー、DVD プレーヤー、レーザーポインター等の用意はありませんのでご注意ください。

2. データ形式について

データの形式は、以下の通りとします。

- a) 使用ソフトウェア：パワーポイント
- b) 動画：環境に依存し、再生が担保できないため使用不可
- c) フォント（書体）：MS明朝、MSゴシック等 Windows 付属の標準フォントをご使用ください。

3. 発表について

発表時は、各分科会で使用するパソコンにパワーポイントのファイルをコピーしておきます。

操作は各自で責任を持って行って下さい。予め動作確認などは主催者側で実施し、トラブルのないように努めますが、基本的には各自で対応して頂く事となります。ご不明な点がございましたら、下記にご連絡をお願い致します。

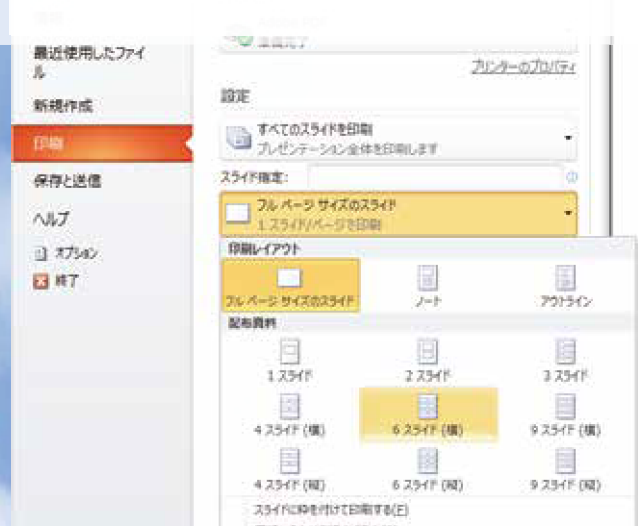
4. データの事前提出

あらかじめ、発表データを下記住所に送付いただくこととします。提出はCD-R又はDVD-Rにてお願い致します。（メール添付は、容量制限で送達不能の可能性があるので、不可とさせていただきます。）

また、CD-R(DVD-R)と一緒に、紙ベースの**配布資料**を添付してください。ご提出いただいたデータ・資料については返却をいたしませんのでご了承ください。

※配布資料の印刷方法（パワーポイント 2010 の場合）

印刷→フルページサイズのスライド→配布資料→6 スライド(横)



提出期限：10月15日（土）必着

※発表当日は、配布資料を 30 部参加者用としてご持参ください。

送付先（お問い合わせ先）はこちら ※お気軽にお問い合わせください

〒491-0821 愛知県一宮市丹陽町重吉字新田裏東切 1070-6

デイサービスセンター・ちあき（担当：伴）

TEL：0586-81-7013 FAX：0586-81-7023

E-mail: fukushi@chiaki.com